



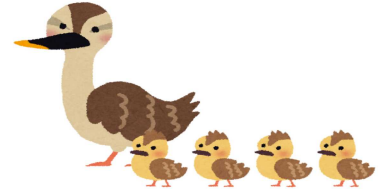
竹松ものがたり

やさしく かしく たくましく

令和6年7月12日
大村市立竹松小学校
発行 石司 貴弘

大人の背中…

先日、ある市の青少年健全育成団体主催の会議に出席しました。学校関係者、町内会、PTA、行政の方、大学生など子どもの育ちを支えるたくさんの方が、活発な意見交換を行いました。



小中学校の体育館や公民館など、たくさんのタバコの吸い殻が落ちている。平気でポイ捨てをする大人がいることが残念。缶ビールの空き缶など、明らかに大人が捨てたと思われるゴミがとても多い。

登下校中の子どもの多くはあいさつができる。自分からできない子もいるが、大人側からあいさつをすると、返すことができる子もいる。しかし、大人にはあいさつをしてもほとんど返ってこない。

ショッピングセンターや公民館などの駐車場を私的な理由で長時間利用するなど、他人の迷惑になるような行動が見られる。

町内でのゴミ捨てるのルールがなかなか徹底できない。ゴミの分別や捨てる曜日が守られず、近くの方が好意で保管したり、清掃したりしている。

「子どもの健やかな育ちのために…」というテーマで話し合いをしたのですが、出てきた意見は「大人の姿」に関するものが多かったように感じました。思わずドキッと、「自分はどうか？」と自分自身の日頃の行いを反省したところです。

どっちなのでしょう？！

私たち大人は、子どもたちに幸せな人生を歩んでほしいという願いをもっています。だから、子どもたちに「必要な学力」、「人とのかかわり、社会を生き抜く力」を身に付けさせるべく、学校や家庭や地域社会でいろいろなことを**教えて**います。

子どもは大人の言うとおりにする

子どもは大人のするとおりにする

さて、問題はこの教え方です。もちろん、言い聞かせて教えるという方法は必要です。なぜそうするのか、そうするとどうなるのか、このようなことを子どもがわかるように伝えなければなりません。それに加えて、子どもに教えたいことを**大人がやって見せる**と、絶大な効果があると思うのです。



「あいさつをしましょう」「友達と仲良くしましょう」
「ゴミのポイ捨てはやめましょう」「ルールやマナーを守ろう」と、
100回言うよりも、やっている背中を1回見せる方が効果的です。

- ◎大人どうしが笑顔でさわやかにあいさつをする
- ◎落ちているゴミを率先して拾う
- ◎地域社会のルールを守る…

学校職員はもちろんのこと、保護者や地域住民がみんなそろって

「子どもにさせたいことを実践」することの効果は絶大です。

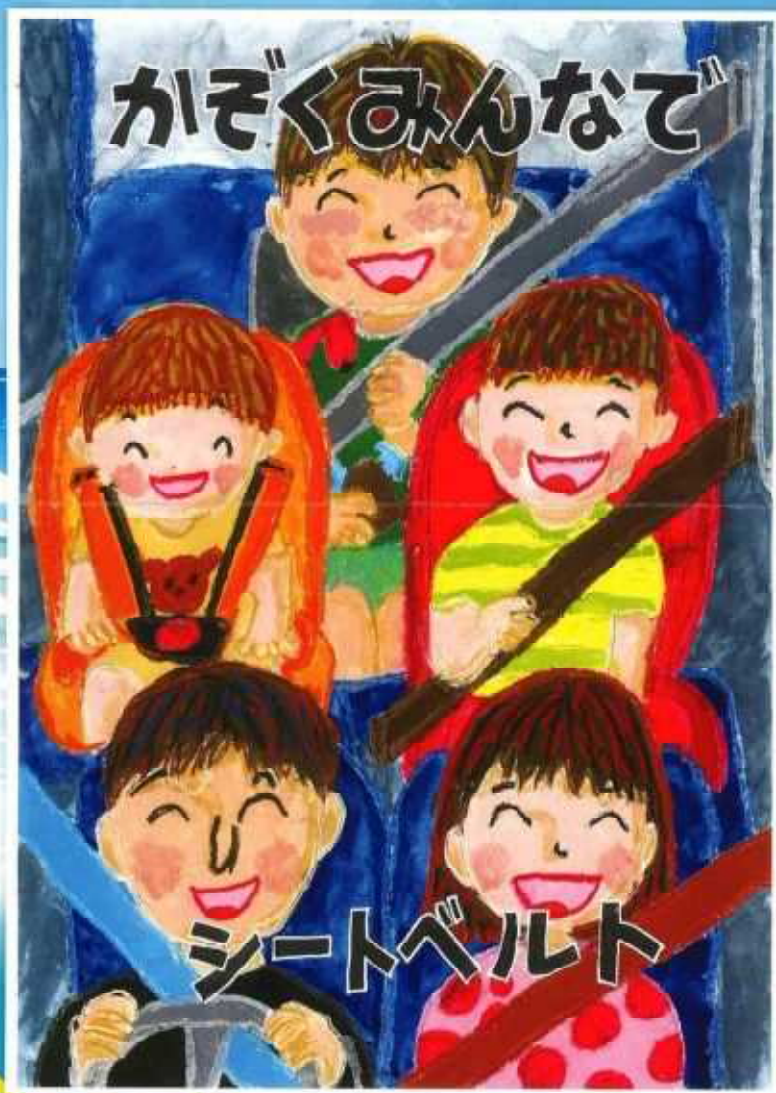
「子どもに〇〇しなさいと言うけど、大人はしない」
「仲良くしなさいと言うけど、大人は人の悪口を言う」
こういうことになると、教育は土台から崩れてしまいます。

「やってみせ 言って聞かせて させてみせ 誉めてやらねば 人は動かじ」
この言葉の意味するところを、大人としてかみしめたいものです。



令和6年 夏の交通安全週間

実施期間 7月13日(土) ▶ 7月19日(金)



交通安全啓発図画コンクール 最優秀作品(令和5年度知事賞)
波佐見町立南小学校2年(当時)
やました としひと
山下 稔人さんの作品

重点

- こどもを始めとする歩行者の安全の確保
- 全ての座席のシートベルトの着用とチャイルドシートの正しい使用の徹底
- 飲酒運転の根絶

特別広報

「横断歩道「止まらば運動」」及び「安全横断「手のひら運動」」の推進

長崎県・長崎県警察・長崎県安全運転管理協議会